

平成 25 年度 長野県元気づくり支援金
事業報告

旧保高宿 今後のまちづくりに向けた提言

実践の記録

平成 26 年 3 月

NPO 安曇野ふるさとづくり応援団

目 次

1. 取り組みの趣旨	1
2. 取り組みの概要	5
3. 実践した取り組みの記録	7
4. 今後に向けて	19

参考資料1	安曇野まちなかカレッジ	案内チラシ
参考資料2	安曇野まちなかカレッジ	運営体制
参考資料3	安曇野まちなかカレッジ	ホームページ
参考資料4	懐かし写真収集資料	

1. 取り組みの趣旨

塩の道とも称される松本と糸魚川を結ぶ千国街道。松本から数えて3番目の宿場である旧保高宿には、今でも蔵造りの古民家や老舗の商店、枡形や裏路地等、当時の面影が残っています。旧保高宿では、平成22年3月に開催したふるさとウォッチングをきっかけに、あめ市や古本市に合わせてウォークラリーやまちなかウォーク等を各団体が協働で開催してきました。

そして平成24年には9回のまちづくりワークショップを開催し、その成果を「旧保高宿・今後のまちづくりに向けた提言」としてまとめました。今年度は、この提言に沿い、体制を構築し、ソフト面からの市民の取り組みの一部を実践してきました。

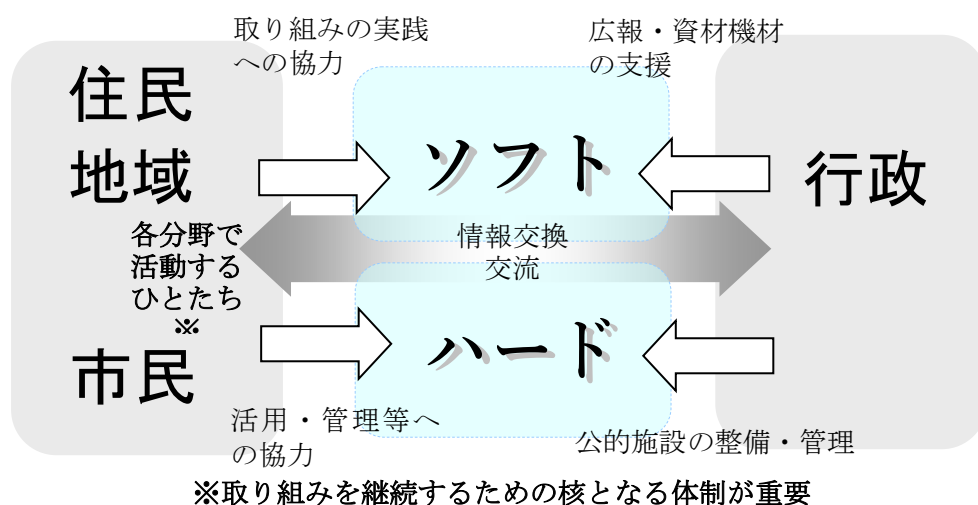
本書はその取り組みの記録です。

「旧保高宿・今後のまちづくりに向けた提言」は、安曇野ふるさとづくり応援団が平成24年7月から半年かけて9回のワークショップを開催し、延120名の市民が参加してまとめた提言書です。

平成24年度長野県「地域発元気づくり支援金事業」として平成25年2月に安曇野市長に提言し、市長、副市長、担当各課の職員を交えて今後のまちづくりについての意見交換を行いました。



上記の概要は2ページ～4ページにまとめるとおりです。



旧保高宿・今後のまちづくりに向けた提言 実施の体制概念図

【まちづくり提言の概要】 まちづくり 10 の提案

1. 歩いてゆっくり暮らして楽しめるまちづくり

■提案 1 停めてゆっくり移動するしくみ、しかけづくり

- ・車で訪れても、車を降りて「ゆっくり」移動するまちへ
- ・駐車場の整備、ルートの明確化
- ・駅前空間、高速バスターミナル空間の整備

■提案 2 散策ルートを整備

- ・碌山通りを活かしたまちの歴史資源をめぐる楽しみ・コースの設定
- ・保高宿外周の自然豊かな空間を満喫できる回廊
- ・案内サインの充実

■提案 3 穂高神社の表参道再生

- ・国道 147 号から穂高神社の社殿に向かう東西方向の参道の再生
- ・支所建て替えに合せた湧水公園、駐車場整備と参道の再生

■提案 4 千国街道の再生

- ・千国街道をもっと安心して歩ける空間に

2. 暮らしと共存する宝を受け継ぐまちづくり

■提案 5 拠点、交流ポイントの確保

- ・旧街道沿いの古民家を活用した活性化拠点づくり
- ・土蔵の活用
- ・まちなかの交流にあわせて 2 公園をリニューアル

■提案 6 楽しく気軽に参加・新たな交流が生まれる取り組み

- ・地区の祭り、既存の行事への参加促進の工夫
- ・新たなイベント

■提案 7 新たな賑わいのためのしくみ・しかけ

- ・空家、空店舗の活用、支援、助成
- ・まちゼミなどまちおこし活動

3. 魅力を高めるまちづくろいと人づくり

■提案 8 歴史文化遺産の保全とまちづくろい

- ・古い文化的資産の保存のための調査、補修
- ・まちなみ修景への助成
- ・道祖神や歴史的建造物のライトアップ
- ・山並みを意識した軸線の定めたまちなみの修復・整備

■提案 9 まちなか水辺の創出

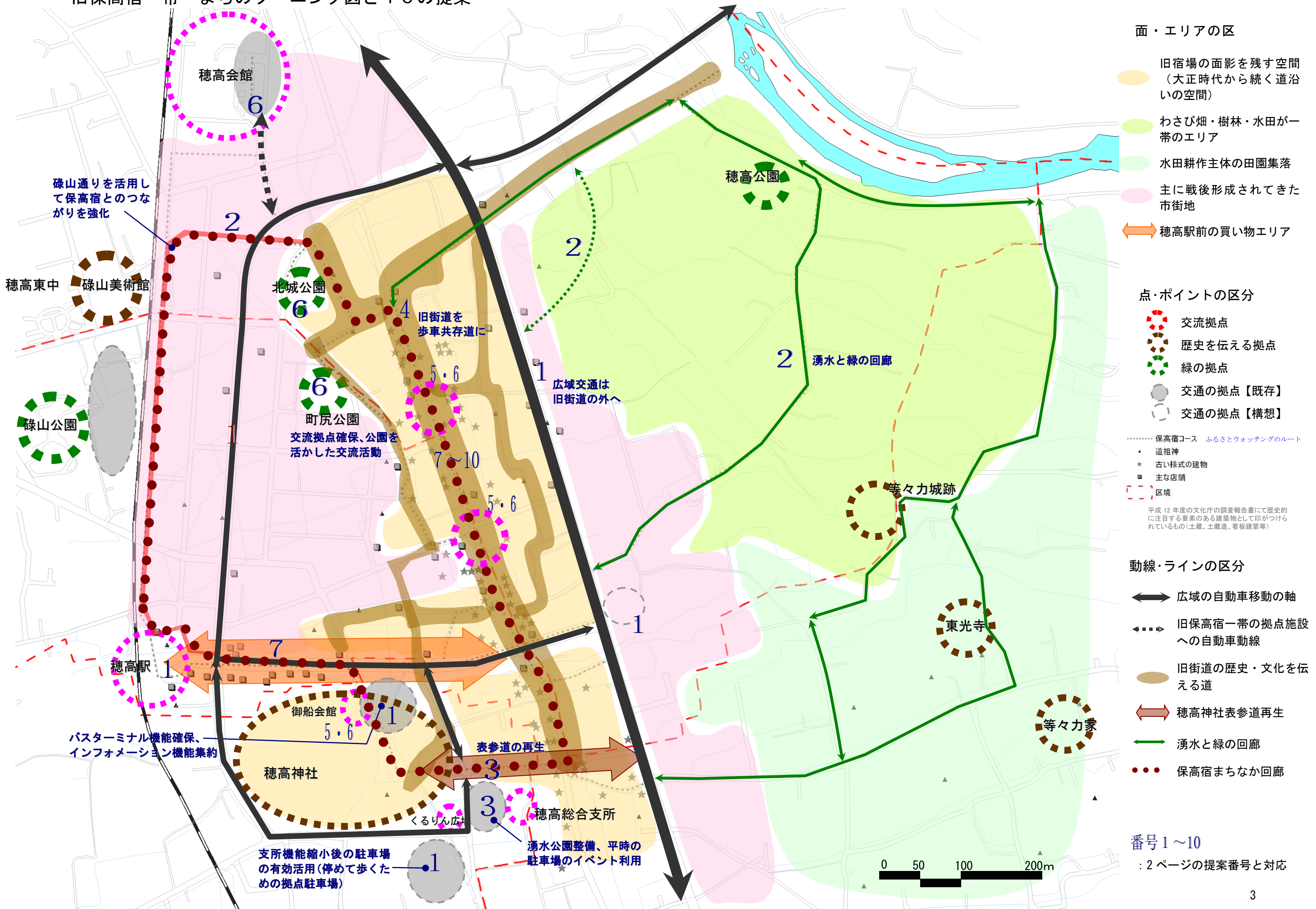
- ・旧街道沿いの一部に水に親しめる空間を創出
(足水・足湯 ポケットパーク 水路再現)

■提案 10 魅力を伝えるしくみ・語り部の育成

- ・子供たち、次世代に伝える学習や体験を通じ、ゆっくりの楽しみを発信
- ・隠れたものを掘り起こす「保高宿物語」づくりの活動
- ・保高宿の魅力を伝える人・語り部の育成

注) (A1～B5) は 3 ページにまとめた工夫のグループの番号

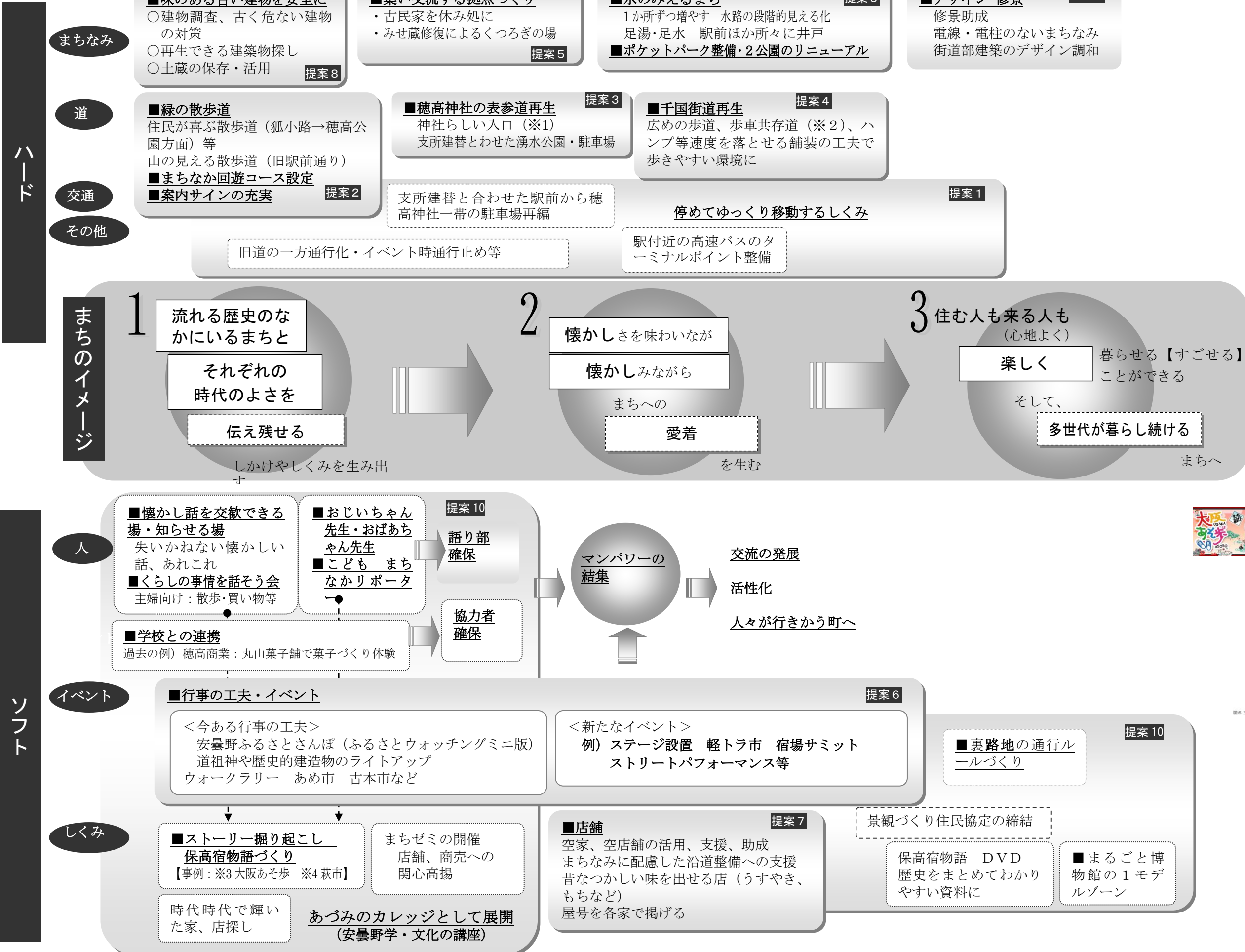
旧保高宿一帯 まちのゾーニング図と10の提案



考えられる「今後のまちづくりの工夫」を効果的に展開させていく提案

現在

未来



参考例



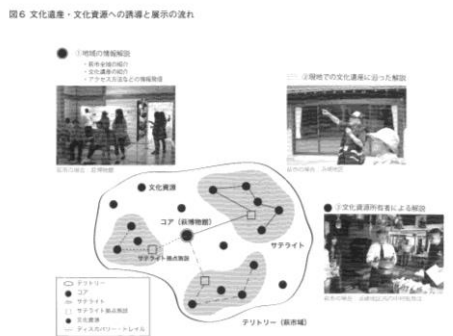
※1 事例：下諏訪町



※2 事例：松本中町



※3 事例：大阪あそ歩



※4 事例：萩市

2. 取り組みの概要

(1) 目的

旧保高宿のまちづくりへの提言では、その実現に向けた第1段階として、各分野で活動するひとたちの結集や、住民からの情報収集などを行って、旧保高宿まちづくりへの機運をさらに高め、様々な分野、世代の方が関わるきっかけを形成していくことが重要であると示されています。

この方向性を踏まえ、本取り組みでは、このまちの資源にまつわる「情報」を集め、このエリアで活躍する人たちとの連携しながら、多面的にアレンジして活用することに取り組みました。これによって、さらに様々な人が旧保高宿に関心をもち、まちづくりに関わるきっかけを生み出すことを目指しました。

(2) 関連する取り組みの状況

集めた情報のアレンジや有効活用の実践の場となる取り組みが、本年度より開始した「安曇野まちなかカレッジ」です。その概要を以下にまとめます。

【概要】

- 「旧保高宿・今後のまちづくりに向けた提言」の実現に向けた第一歩として「情報共有によるソフト事業の一体化」と「協働のまちづくりに向けた交流の場づくり」として、「まちゼミ」を含む既存のソフト事業の一体化を図る期間限定の取り組み。
- 10月の1ヶ月、2月の1ヶ月に実施。実行委員会を平成25年7月に設立し、取り組みを進めた。



【まちなかカレッジ・秋】

日時：10月5日～27日

場所：旧保高宿周辺

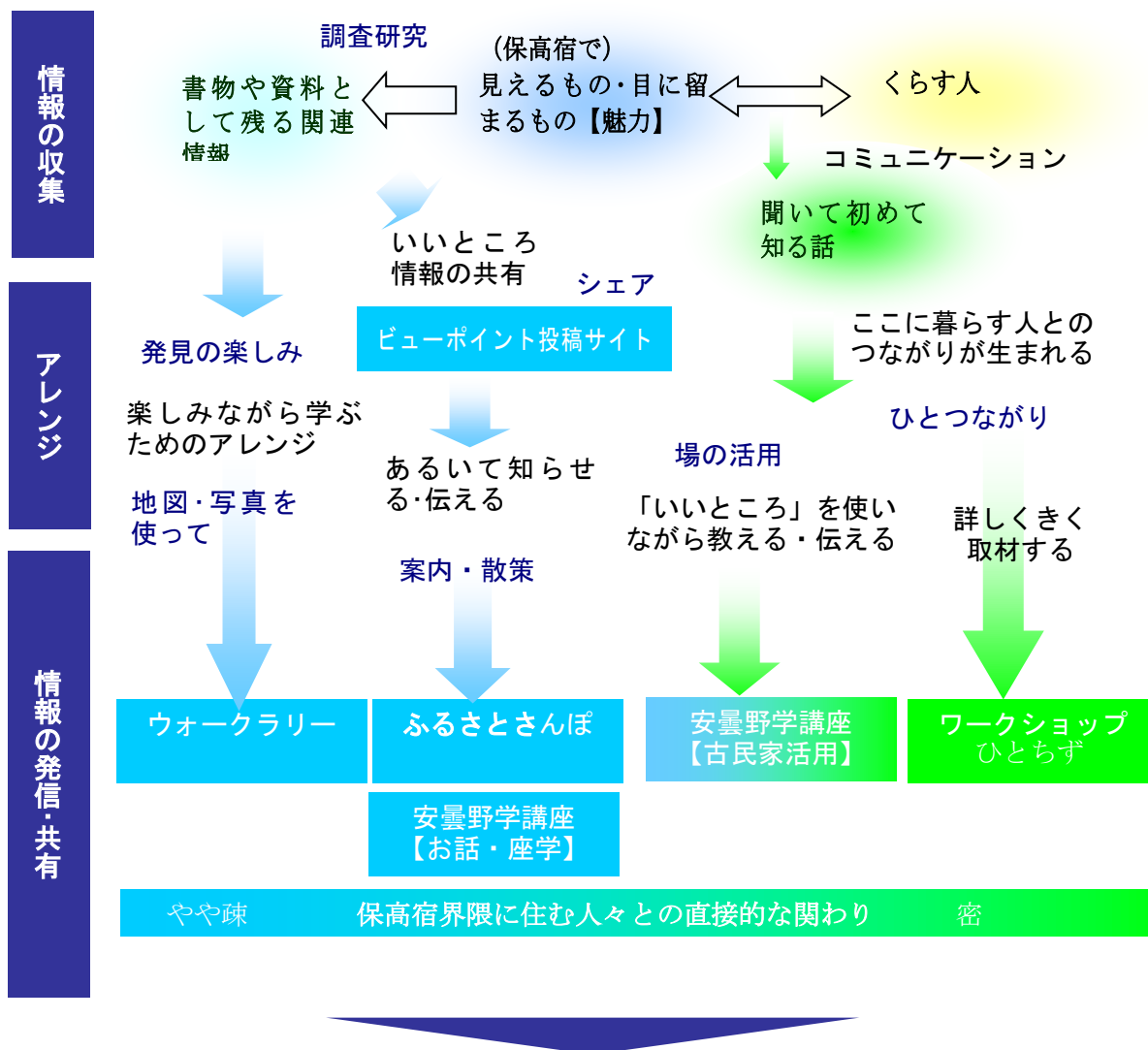
【まちなかカレッジ・冬】

日時：2月1日～23日

場所：旧保高宿周辺

(3) とりくみの内容

「旧保高宿の魅力」についての情報を集め、アレンジし、安曇野まちなかカレッジの機会を活かして、下図のような考え方のもとで、効果的に発信してこのまちでの交流の輪をより広げることができる機会を様々な手法により創出しました。



<本年度の取り組み>

- ①昔の写真といまの地図・見えるものをつないで楽しむウォークラリー
- ②いいところ情報をシェア・蓄積する 「あづみのビューポイント投稿サイト」
- ③保高宿を歩いてまわる「ふるさとさんぽ」
- ④保高宿から発信する「とっておきの話」
- ⑤昔の暮らしを実感できる古民家を舞台にした ミニ博物館・講座の実施
- ⑥ワークショップ 「つくろう安曇野のひとちず」

3. 実践した取り組みの記録

前頁に示した5つの取り組みについて、実施にあたっての着眼点、実践した内容、今後の展開についてそれぞれまとめます。

(1) 昔の写真といまの地図・見えるものをつないで楽しむウォークラ

1) 着眼点

このまちの「昔からの変化」は、まちづくりに対してより多くの世代の関心を高めるうえで重要なキーワードです。

いまは見えないものであっても、昔からの変化を教えてもらえたり、理解することは、地域の歴史や文化が継承されていく上でも重要です。

この点を踏まえ、昔からの保高宿の変化のわかる資料として、過去の写真を収集・整理し、これを活用したまちなか観察・学習のツール作成を実施しました。

2) 内容

①資料整理

既存の文献から旧保高宿界隈の写真を画像としてデータベース化して、番号を付けて整理し、リスト化しました。

②まちなか観察・学習のツール作成

①の写真それぞれについて、現状と対比させて、よりその変化を現地でとらえやすいかどうかについて評価しました。

そのうえで、より対比しやすい写真11枚を用い、これらと現在の様子との対比を歩きながら行い、過去の写真の撮影箇所を当てるクイズ形式のA3サイズのシートを作成しました。

③なつかし写真探検ウォークラリー

作成したシートを活用し、ウォークラリーを実践しました
(平成25年10月26日、平成26年2月2日に実施)

3) 今後の展開・活用等

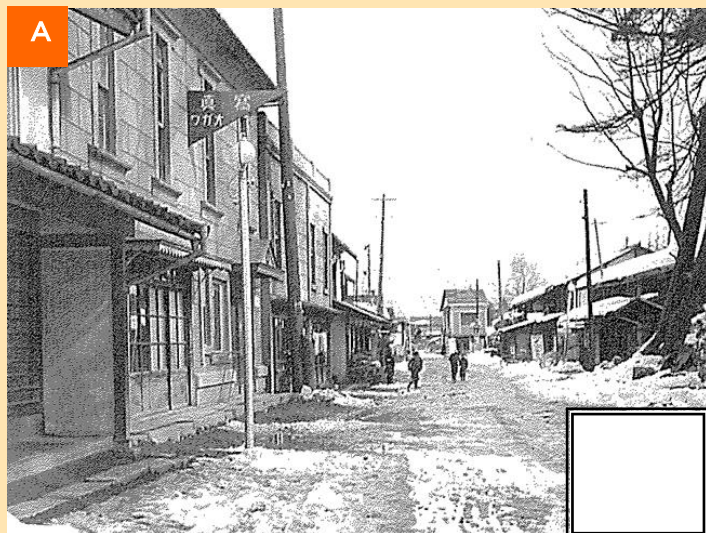
今回の情報収集、整理の作業を通じて写真ストックができましたので、入れ替えにより、また異なる内容のウォークラリーの実施が可能になります。

このほか、今後写真の収集などと呼びかけるなど、さらなる参加の輪を広げるためにも、効果的な手法として期待できます。

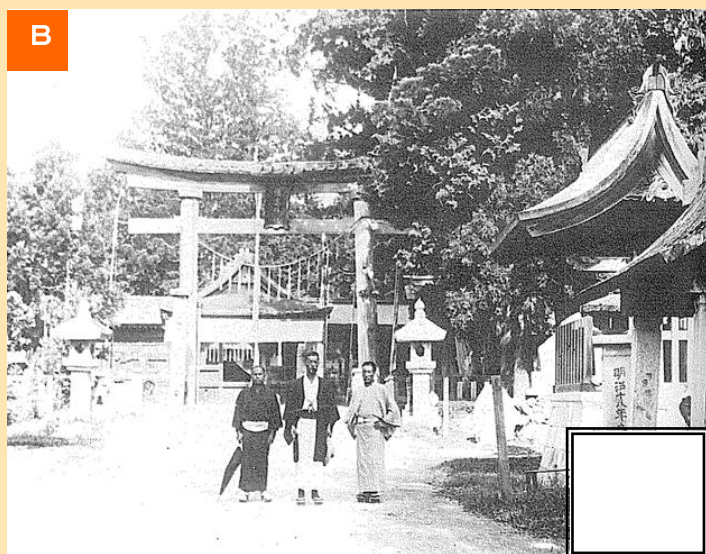
見学ポイント(入館無料)

A～Lの写真は、うら面のコースマップ中の1～12の場所で、昔の人が撮影した写真です。写真の中にあるものと今あるものをよく見くらべて、ヒントも参考にして、□のなかに撮影場所の番号を書き込もう！

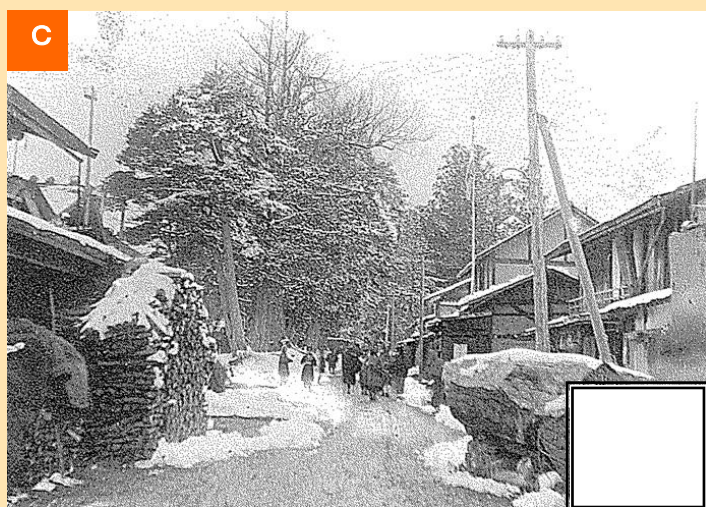
ゾーン①



【ヒント】看板のなかのカタカナの文字に注目！
(昭和の中頃)



【ヒント】どの鳥居だろうか？
(明治時代後期)



【ヒント】奥にある大きな木は今もまだあります。(大正時代・中頃)

ゾーン②



【ヒント】看板に注目！(昭和46年)



【ヒント】看板に注目！(昭和33年)



【ヒント】大正4年頃の絵はがきの写真。「右側の建物は旅館」と書かれていたようです。当時、旅館だったところはどこでしょう？



【ヒント】右端の建物の形に注目！
(昭和40年代)



【ヒント】今もこのままの雰囲気が十分残っています。(昭和50年代：推定)

→【ヒント】ノーヒント！
(昭和33年)

↓【ヒント】タクシーに乗ることができる
広場があるところです。
(昭和30年代)



ゾーン③



【ヒント】車をたくさん止めることができる
広い場所です。
(昭和49年)



【ヒント】お墓は今でもあるよ！
(昭和48年)

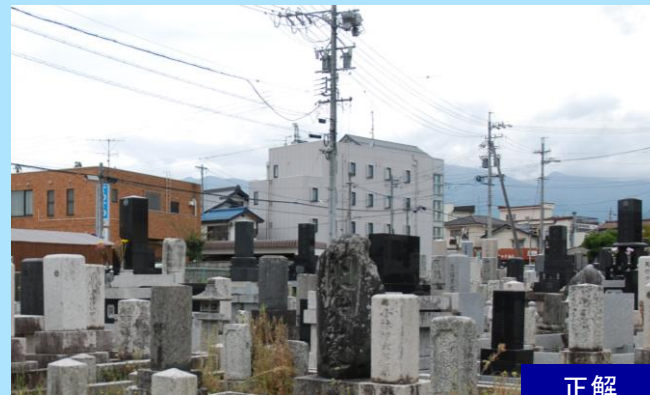


昭和30

ゾーン③



駅前通りの工場（昭和 48 年）
大きな木造 4 階建ての建物は、前田製紐電線の工場。太平洋戦争中に疎開してきました。
（出典：大町安曇の今昔）



現在は工場の建物はなく、手前のお墓が残っています。お墓は昔に比べ数が増えています。

正解

10



礫山の鐘（昭和 33 年 4 月）
「礫山の鐘」が人力で引き上げられ設置されときの様子。（出典：大町・安曇の昭和史）



敷地内の木々も大きくなり、冬でないとその様子はよく見えません。

正解

9



未舗装だった穂高駅前（昭和 30 年代） （出典：大町安曇の今昔）
区画整理事業前の駅前。正面の店「あけぼの」は、駄菓子や日用品雑品などを売る何でも屋で、家の右側には穂高文化会館で上映する映画などの看板やポスターが置かれていたそうです。



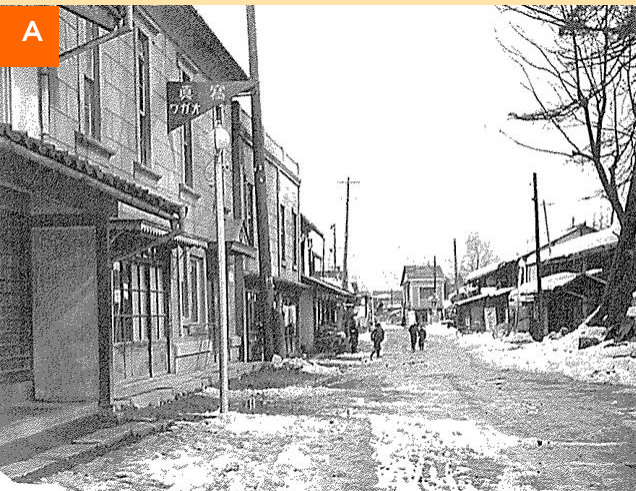
道路も舗装され、駅前の広場にはロータリーがつけられ、昭和 30 年頃と比べ大きく変化しています。

正解

11

なつかし写真探検ウォークラリー 解説編

ゾーン①



穂高町大門通り（昭和中期）
冬の穂高神社東の大門通りの様子。
（出典：昭和の街角 大町安曇野北安曇）



当時の写真のなかの看板の「ワガオ」は小川写真館の「オガワ」。建物の壁には、当時の雰囲気が残っています。

正解

2



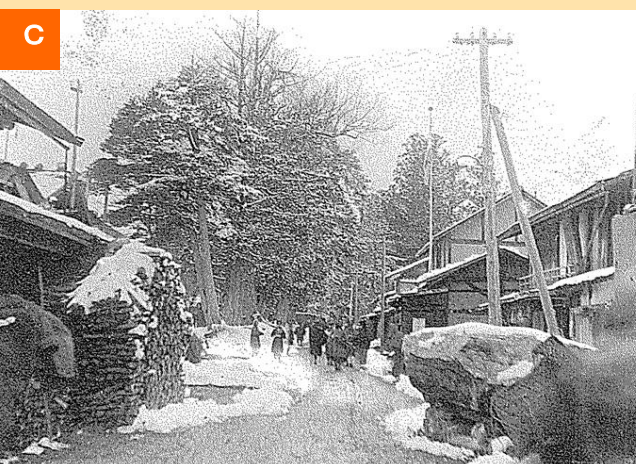
穂高神社（明治後期）
穂高神社の鳥居の前での記念写真。
（出典：目で見える安曇の 100 年）



樹木が成長しています。鳥居の横の灯籠は狛犬に、手前の建物も今は違うものになっています。

正解

1



大正期の大門通り（大正中期頃）
写真左側奥が現在の穂高総合支所のある場所。
（出典：目で見える安曇の 100 年）



写真左奥のケヤキの大木は、大正時代からすでに大きかったようです。現在は市の文化財に指定されています。

正解

3

ゾーン②



D
本通りを行くボーイスカウトのパレード（昭和 46 年）
この年の 3 月 28 日、ボーイスカウトあづみ第一団として、穂高中を会場に発団式を実施。その後のパレードの様子。（出典：ふるさと安曇野）



E
お菓子屋さんの前で（昭和 33 年）
本通りのお菓子さんの前のようす。道の片隅の自転車に興味を示して遊んでいる子どもたちがみえます。（出典：昭和の街角 大町安曇野北安曇）



F
人力車が行く糸魚川街道（大正 4 年）
当時の絵ハガキの写真。記されている説明によると、「左は来賓、松沢氏方を出て式場へ。右は塩屋旅館」とあります。この年の 7 月 15 日、信濃鉄道の柏矢町－穂高間が開通し、その祝賀当日の様子。（出典：大町安曇の今昔）



正解
三沢菓子店、八十二銀行の並びは変わっていません。とくに、三沢菓子店の外壁は（色は当時と違いますが）、古くからの残っているものです。

正解

5



正解
左の説明の「お菓子屋さん」は「丸山菓子舗」のことです。

正解

8



「塩屋旅館」はその後改修され、当時とは違う形になっています。「松沢氏方」は現在も当時の雰囲気が残っています（若松屋）。左の写真解説の文面と写真の撮影角度から考えられる位置で撮影しました。

正解

6

ゾーン②



G
整備されてきた本通り（昭和 40 年代）
専門店の看板が立ち並ぶ本通り。左側の看板「丸山時計店」は現在のイヴェル・マルヤマ。（出典：昭和の街角 大町安曇野北安曇）



H
二木邸（昭和 50 年代（推定））
天保 8 年（1837 年）に建てられた建物。江戸時代から明治時代にかけて塩問屋としていた。（出典：歴史の道調査報告書）



正解
写真左の建物（パチンコ店）は現在ありませんが右側の建物は当時の面影を残しています。看板の数が少し減っています。

正解

4



正解
旧千国街道沿いで、古くからの状態をおおむねそのまま保っている建物の代表格。建てられた年から現在までの年数は 176 年になります。

正解

7

ゾーン③



I
穂高文化会館（昭和 49 年）
敗戦後、庶民の有志が娯楽を求め、穂高神社外苑を借り、建設された穂高文化会館の写真。木造 2 階建て。映画・演劇・大衆演芸・発表会場など多彩な活動がみられましたが、昭和 40 年に閉館。（出典：大町安曇の今昔）



穂高文化会館の跡地には、昭和 57 年に御遷宮を記念して、御船会館がつくられました。現在は、その隣には穂高人形研修館もあります。御船会館には、安曇族や穂高神社に関する資料が展示されていて、安曇の歴史を知る貴重な資料館となっています。

正解

12

(2) いいところ情報をシェア・蓄積する 「あづみのビューポイント投稿サイ

1) 着眼点

インターネットは、みどころを広く伝える手段として有効です。安曇野ブランド推進の取り組みで設置されている「景観あづみの」のサイトのなかの「ビューポイント写真投稿」のページでは、全市のビューポイントやみどころが、場所とセットで投稿できるようになっています。

これを用いることで、市内のみどころについての情報蓄積を継続して進めることができます。

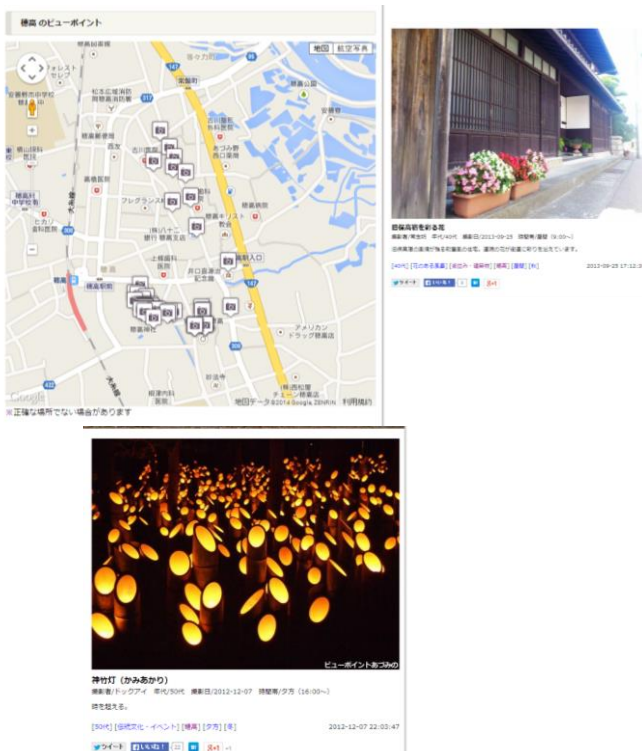
2) 取り組み内容

いいところ、ビューポイントなどの集まってきた情報を整理することで、エリアの新たな発見や周知につなげていく取り組みです。

保高宿付近での投稿例を以下に示しました。

3) 今後の展開・活用等

場所情報とセットでビューポイントの情報が蓄積されるため、みどころマップの作成や各種案内、フォトロゲイニングなどにも活用が可能と考えられます。



旧保高宿付近での景観写真の投稿の例

「景観あづみの」ホームページ

(3) 保高宿を歩いてまわる「ふるさとさんぽ」

1) 着眼点

目に見えるもの以外の魅力を伝え案内してくれる人がいれば、よりまちの魅力も効果的に伝わり、多くの人が行きかうきっかけになると考えます。

歩いて話しながらまちのみどころを案内するには(1人で歩くときも含め)、現地に即した案内資料が有効です。

ふるさとづくり応援団では、これまでふるさとウォッチングを市内各所で実施してきました。

そのストックをアレンジ・活用して、ウォッチングより短めの時間の散策を本年度より実施し、生で見て理解を深めるための案内情報の発信に力を入れました。

2) 内容

「千国街道保高宿をめぐるふるさとさんぽ」の実施

ウォッチングで活用してきた資料を整理、アレンジし、配布して案内。

3) 今後の展開・活用等

個々のみどころに行きながら、まちなかの楽しみを満喫できるようなしなかに繋げることが重要です。

例) 店の情報とセットで持ち歩き可能な地図にする。

例) 多数あるみどころ情報を、1ヵ所1枚のカードにし、店に置いたりすることで、そのカードを集める魅力で人を集める 等。

穂高神社と保高宿の歴史を巡る

穂高神社

本宮(里宮)はここ安曇野市穂高、奥宮は上高地の明神池畔、嶺宮は奥穂高岳の山頂に、それぞれ鎮まっています。
御祭神の穂高見神と綿津見神は海人族である阿曇(=安曇)族の祖神とされる海神で、この地に定着した阿曇族と穂高神社の密接な関係を示しています。
正確な創建年は不明ですが、平安時代延喜式神名帳に「名神大社」として記載があり、古代からの全国的な大社であることが分かります。



御祭神

中殿: 穂高見神(はたかみのかみ)
左殿: 綿津見神(わたつみのかみ)
右殿: 瓊瓊杵神(にぎはぎのみ)
別宮: 天照大神(あまてらすのおおみかみ)
若宮: 阿曇連比羅夫命(あづみのむらじひらふのみこと)
相殿: 信濃中將



拝殿

(平成20年完成)

若宮西の櫓

推定樹齢、約500年。
井上靖の小説「櫓の木」に登場。
(安曇野市天然記念物指定)

神楽殿

建立年不明。



摂社・若宮社

境内には多くの摂社が祀られています。
上写真中央の大きな社は若宮社で、御祭神は阿曇連比羅夫命、相殿は信濃中將。お船祭りの秋に行われる9月27日は安曇比羅夫命の命日とも伝えられています。



狛犬(若宮社前)

明和6年(1769)建立。
石造の狛犬としては比較的古い年代に属します。双方とも前足の間は刺り抜かれておらず、素朴さを感じさせる造りですが、峰形(写真左)の顔が風化し始めている点が少し残念です。

狛犬(正面)

昭和15年(1940)建立。
大型の招魂社系狛犬。堂々と胸を張った姿で鎮座しています。作者は穂高出身の彫刻家、小川大系。



機宮(奥穂高岳)



奥宮(上高地)



李葉杉

推定樹齢、約500年。

境内入り口の大鳥居



手水舎

珍しい総石造で、明治18年(1885)建立。手洗石には享保14年(1729)の銘文が刻まれています。
(安曇野市有形文化財指定)



神苑周辺の道路

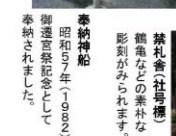
神苑に隣接している西側と南側の道路は市街地ながらも鎮守の杜のおかげで心地よく歩くことができます。



仁王石

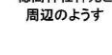
文久2年(1862)建立。
古文書によれば、かつて境内にあった神宮寺が廃寺となった折に門前にあった仁王は松本城主水野家により召し上げられ、その後木を植え仁王と称していたがそれも枯れ、代わりに地元衆が牧地区より大石を運び出し、配り上げたものが現在の仁王石であると伝えられています。
件の仁王像は松本市の玄向寺にあって今も現役で、仁王門の両脇から寺を守護し続けています。

(下)玄向寺に現存する仁王像



御遠宮祭記念として、昭和7年(1932)に奉納されました。

穂高神社神苑と周辺の様子



北神苑の摂社

(左から)八王子社・菅原社・歌神社

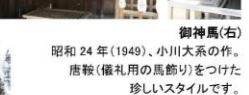
御神馬(左)

明治18年(1885)奉納。
願懸け馬として親しまれています。



御神馬(右)

昭和24年(1949)、小川大系の作。
唐鞍(儀礼用の馬飾り)をつけた珍しいスタイルです。



表参道の大鳥居

明治42年(1909)建立。



玉垣

明治17年(1884)建立。



石燈籠

安永7年(1778)建立。
(左)穂高支所前(右)丸美屋酒店前



(安曇野市天然記念物指定)



神橋

明治16年(1883)建立。
年銘のあるものとしては市内でもっとも古い石橋のひとつ。欄干の雲電透かし彫りが目を惹きます。
(安曇野市有形文化財指定)



千国街道・保高宿



松本と糸魚川を結ぶ千国街道、通称・塩の道。

松本宿から数えて3番目の宿駅が、ここ保高宿です。

かつては日本海から海産物や塩、内陸からは麻や木綿、木炭などを運ぶ街道の宿として、旅人の往来を見守ってきました。交通の発達し始めてきた明治半ば以降はとくに活況で、第二次大戦前までは養蚕やワサビ栽培の発展とそれを先買する商人たちにより、現在E道と呼ばれているメインストリートのほか、明科方面へ抜ける狐小路などはけっこうな賑わいをみせていました。街道沿いの古い民家や土蔵などに往時の面影を偲ぶことが出来ます。

なお保高宿は保高町村と等々力町村の二村でもつ合宿という特殊な形態で、伝馬の人馬割などは両村で分担していたそうです。



旧街道の民家

街道沿いの民家らしく、通りの側へ軒先を向ける町屋の様式が多く、土蔵造りや本棟造りの建物も何軒が残っています。古民家の佇まいを活かした飲食店など、建物を再生して利用されている例もあります。



大正ロマンの建物

旧街道や大門通りでは、大正ロマンの洋風デザインの建物が商店を中心に流行した時期があり、その面影を残す建物が各所に残っています。

塩の道・千国街道 14宿(両起点を含む)

- ・糸魚川宿(新潟県)
- ・山口宿(新潟県)
- ・大綱宿
- ・来馬宿
- ・千国宿
- ・塩島新田宿
- ・飯田・飯森宿
- ・沢渡・佐野宿
- ・海ノ口宿
- ・大町宿
- ・池田宿
- ・**保高宿**
- ・成相新田宿
- ・松本宿

塩の道・三州街道 20宿(両起点含む)

- ・塩尻宿
- ・小野宿
- ・.....
- ・岡崎宿(愛知県)



土蔵群

旧街道沿いの民家裏手を中心に多くの土蔵が残っています。それぞれに個性があり、当時の大工や左官職たちによる匠の技が建物内外のそこかしこに垣間見られます。

街道・・・おもてとら

千国街道のなかでも大町宿と比べると深い歴史をもつ保高宿。現在わたしたちが目にするこの出来る街の様子にも、当時の姿が見え隠れしています。



矢原堰

承応3年(1654)開削。
全長約8.3キロ。安曇野ではもっとも古い横堰で、545mの等高線に沿って流れています。古くはこの堰より分水した水路が保高宿の街道を流れ、飲用水にも使われていました。現在は堰沿いに遊歩道が整備されています。



五社稲荷大明神(左)

保高宿旧街道西側の裏通りに祀られている、赤鳥居と白狐がシンボリックな神様です。



枅形(北)

枅形とは、有事の際に敵の侵入を防ぎやすくすることを目的として、わざと直角(あるいはそれに類する形状)に曲げた街道の形状とその場所のことです。保高宿も宿場の例にもれず枅形があり、北側の場所は現在の丸山菓子舗のある交差点付近で



黒塗り壁の民家

街道沿いで黒漆喰による仕上げ壁が目立ちます。白漆喰に比べて手間もコストもかかるため、一種のステータスのように用いられていました。また太平洋戦争時に白壁だと空襲の際に目立って攻撃されやすいということから黒く塗り替えるよう当局の指示があり、現在も復旧せずそのまゝの状態で使用されている壁面も一部にあるようです。

十王堂

十王は冥土で亡者の罪を裁く判官のこと。死後の冥界での裁きに手心を加えてもらおうと諸王や冥界のものをそろえて供養し、お参りするために祀ったのが十王堂です。この十王堂は雨の枅形付近より小路を入った場所にあります。



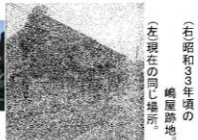
枅形(南)

保高宿南入口の枅形は、現在の駅前通りと旧道との交差点の、南寄りのカーブになったあたりでした。ちょうど矢原堰が横断している為、等々力町と穂高町が共同で木橋をかけたそうです。また保高宿には関所があったことも知られており、場所は定かではありませんがこの雨の枅形にあったであろうと推測されています。



崎屋酒造店跡

かつては保高宿にも酒造店があり、場所は大門通りと旧道との交差点より南側の、現国道寄りの一角でした。最盛期には土蔵が幾棟も建ち並び、穂高町で指折りの大店だったそうです。崎屋跡の北側にある細道は電屋小路といい、昭和37年に大門通りから現国道へ抜ける道が出来るまでは白金方面から穂高駅へ抜ける主要道路でした。



(右昭和33年頃の
左現在の同じ場所
崎屋跡地)



穂高劇場

大正から昭和にかけて存在した、穂高町の演劇の殿堂。現在の国道147号、しまや薬局の向かい付近にありました。そのほか町内には時代を前後あるいは重ねるように、常盤座、穂高座などが並列し、賑わいをかせていました。

「ふるさとさんぽ」での配布資料の一部

(4) 保高宿から発信する とっておきの話

1) 着眼点

昨年度のワークショップの中でもまちなかで様々な発見がありました。その発見をもとにしたさらに深い情報の蓄積と発信も重要です。その分野に詳しい方が連携して解説する講座形式で魅力を伝えることとしました。

2) 取り組み内容

穂高神社と関係する狛犬、黒部ダム施工地で用いられていた櫓を使った火の見櫓など。

このまちの特徴的な資源を、特別の機会に特別の講座として発信する講座を開催しました。

○知れば知るほど奥深い狛犬講座
平成 25 年 10 月 27 日

○火の見やぐらって面白い
平成 26 年 2 月 16 日

3) 今後の展開・活用等

今後もさらに新しい魅力の掘り起こしを通じ、以下のような保高宿のみどころと関連するテーマを限定した講座の実施が可能と考えられます。

例) 水路とまち
水と暮らし
道祖神めぐり
古民家・町家の建物案内

安曇野案内人倶楽部 Presents

知れば知るほど奥深い 狛犬講座入門編

安曇野まちなかカレッジ2013秋「安曇野学講座」





「狛犬なんてみんな同じでしょ」…そんなふうに思ったりしていませんか？
神社や寺の境内にじっとたたずみ、私たちを静かに見守り続けてくれる狛犬たちって、
本当はとっても地方色豊かで個性的、芸術的魅力もたくさんあるのです。
知れば知るほど奥深く、ひとたび嵌り込んだら抜け出せない狛犬ワールド。
安曇野に生きる狛犬たちの姿を中心に全国各地の狛犬文化を紹介します。
(本講座は平成24年10月に開催した講座「奥深い狛犬を考察する in CAFE VALO」のリメイク版です。)

? 開催日時：平成25年10月27日(日) 午後1時30分～(午後3時頃終了予定)
? 開催場所：安曇野市市民活動センター(くるりん広場)(安曇野市穂高6658、TEL：82-1922)
? 講座主催：安曇野案内人倶楽部(安曇野市穂高5971-1)
? 講師：高松伸幸(安曇野案内人倶楽部)
? 定員：30名(定員に達し次第締め切り)
? 受講費用：100円(資料代)
? 申込方法：FAXにて下記まで(代表者氏名・人数・電話番号をご記入下さい)
? 備考：車でご来場の方は、穂高総合支所駐車場をご利用下さい。
お申込み後のキャンセルは、お手数ですがご連絡をお願いします。

お問合せ：090-1615-1440(高松)

申込FAX：0263-88-5565

代表者氏名	受講希望人数 (代表者含む)	連絡先(電話番号)	備考



安曇野学講座「知れば知るほど奥深い狛犬講座」

安曇野案内人倶楽部 Presents

安曇野まちなかカレッジ2014冬「安曇野学講座」参加

火の見櫓って おもしろい♪



集落の中にあって静かに佇み、私たち住民の暮らしをそっと見守り続けてくれている火の見櫓。地域防災の拠点であり、集落のランドマーク。そして打ち鳴らされる半鐘の音はまさに地域のサウンドスケープ。住民にとって心の拠り所でもある火の見櫓は、しかしながらいま、時代の移り変わりとともに役割を終えたとして、全国各地の集落から少しずつその姿が消え去ろうとしています。

今回の講座では、そんな火の見櫓に魅かれ、安曇野を含む各地の火の見櫓を訪れている平林勇一氏を特別講師に迎え、建築の専門家としての解説も交えつつ、デザインも様々な火の見櫓の画像を拝見しながら、その鑑賞方法などを分かりやすく楽しくトークしていただきます。

今まで気にしたことなかったのに、いちど気になってしまうと目が離せなくなる存在、それが火の見櫓。

講座を終えた瞬間には、あなたも立派な「火の見やぐら」になること間違いなしです！

- ? 開催日時：平成26年2月16日(日) 午後2時00分～(午後3時半頃終了予定)
? 開催場所：安曇野市商工会穂高支所(安曇野市穂高5047、TEL：82-5820)
? 講座主催：安曇野案内人倶楽部(安曇野市穂高5971-1)
? 講師：平林勇一氏(一級建築士)
? 定員：30名(定員に達し次第締め切り)
? 受講費用：100円(資料印刷代)
? 申込方法：電話にて下記問合せ先まで、氏名・人数・電話番号をご連絡下さい(FAX可)
? 申込・問合せ：090-1615-1440(事務局担当・高松)
? 備考：車でご来場の方は、安曇野市穂高会館駐車場をご利用下さい。
資料作成の都合上、お申込み後のキャンセルはお手数ですがご連絡をお願いします。

FAXの方はこちら・・・0263-88-5565

代表者氏名	受講希望人数 (代表者含む)	連絡先(電話番号)	備考



安曇野学講座「火の見櫓って面白い」

(5) 昔の暮らしを実感できる古民家を舞台にした ミニ博物館・講座の実施

1) 着眼点

古くいわれのある実物の空間で体験・交流の活動ができれば、そのまちの魅力を肌で感じ取る機会が提供できます。さらにこのような機会を効果的に発信できれば、その空間の価値も広く知れ渡り、古い資源の保存や活用を支えることに理解者も増え、古いものも活かす支援体制の確立にもつながると考えます。

2) 取り組み内容

若松屋（松沢久策生家）の一角をお借りして、以下の取り組みを実施しました。

○「若松屋」の展示見学 平成 25 年 10 月 26 日・27 日

昔の安曇野の暮らしを伝える展示（豊科郷土博物館の協力）

○初心者のための安曇野入門 平成 25 年 10 月 27 日

家主とも縁ができたほか、建物の清掃などにも協力することで双方の理解も深まりました。

眠っている資源を有効に活用できた点は大きな効果です。こうした取り組みもあって、若松屋は再び店舗として活用される運びとなりました。

3) 今後の展開・活用等

近くにも歴史ある古民家で日常は活用されていない建物がいくつかあります。

旧保高宿にまつわる様々な情報の集積・発信の拠点としての活用や、理解を深める場としての活用など、「まちづくりの提言」の提案5に直結する取り組みです。今回のような実績も活かして活用の趣旨目的を明確にしながら、家主との連携を深めていくことが重要です。



若松屋の外観



松沢求策の解説パネル展示



あづみのの民家でのくらしの道具
の展示・紹介(10/26,27 実施)



若松屋の一部屋をお借りしての安曇野学講座の様子

(6) ワークショップ 「つくろう安曇野のひとちず」

1) 着眼点

まちづくりの主役はこの地域に暮らす人たちです。

いろいろな方からこのまちについて話をきいて、今では見えないもの、外観では判断できないものをとらえることは、このまちに息づくものを活かすまちづくりを進めるうえで重要と考えます。

さらには、お話をしてくださる方々と、このまちに外部からかかわってみたいという若い世代とのつながりを設けることは、今後のまちと外部との交流促進に重要な役目を果たすと考えます。

今回の取り組みの過程のなかで、信州大、長野県若手職員グループとの縁が形成できたことから、その縁を活かして、「つくろ安曇野のひとちず」のワークショップ運営を企画しました。

2) 取り組みの概要

安曇野学講座の一コマとして「つくろ安曇野のひとちず」のワークショップを企画。

主催：SHIP 県庁若手職員グループ

協力：信州大学人文学部

概要：

○オリエンテーション

- ・進め方、保高宿の概要案内などのオリエンテーション

○ワークショップ1

- ・まちを歩き、まちなかにいる方々に話をきいたり、気づいたこと(主に人とのかかわりの視点をもって)等を記録。
- ・その内容を付箋に書き込んだり、撮影した写真も活用して大きな用紙にグループ単位で貼りつけて整理。

○ワークショップ2

- ・各班のリレー報告のあと、地図を並べ、「この地図のなかに「私」という人が飛び込んで〇〇したい」という考え・提案を自分の顔写真と合わせて、述べながら貼りつけ。
- ・地元のひとから聞いた話や、各自が気づいた人の関わりと、自分のことができることがつながることで、今後のまちづくりの人と人とのつながりを新たに導くきっかけとする

実施：平成26年2月23日を予定していたが大雪後で歩行が危険なため中止

3) 今後の展開・活用等

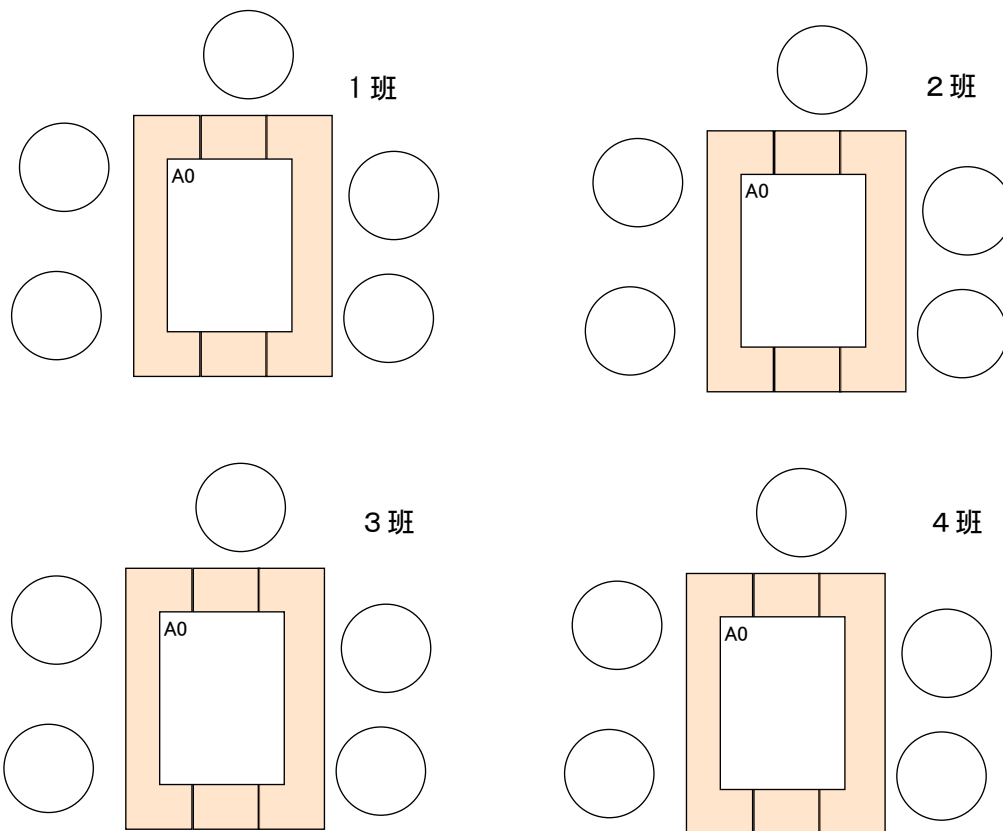
- ・天候、現地条件によりやむなく中止となった内容を次年度実施する予定です。

タイムスケジュール案

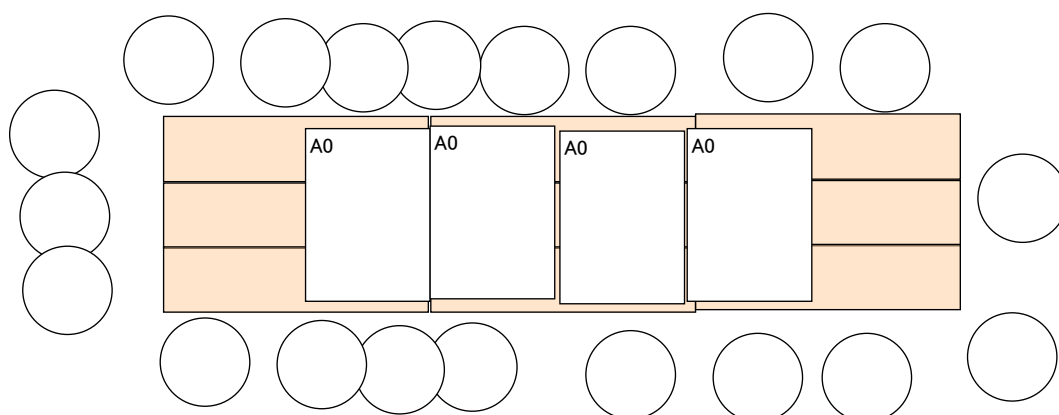
時間	内容	備考
11:00	集合・準備	
11:30	会場準備	
12:00	進行の調整	
	昼食	
12:30		
	受付	
13:00		
	オリエンテーション 主催者あいさつ(SHIP代表者) 本日の進め方の案内 保高宿とは？(高松さん解説) グループ内自己紹介＆写真撮影	
13:30		
	ひとちずづくり ネット集めのまちあるき 90分	
	4班に分かれて実施	
14:00		
14:30		
15:00		
	休憩	
15:30	ワークショップ1 まち歩きでの発見した人、人から聞いたお話しなどをふせんに書いて貼り付け	
16:00	リレー報告 各班5分	
	ワークショップ2 「この地図のなかに飛び込んで私は〇〇したい」 記入時間5分程度。図面を移動。 写真と提案をセットで地図上に貼り、1人ずつ報告	
16:30		
	まちに関わる長老より 総括	
17:00		

会場図

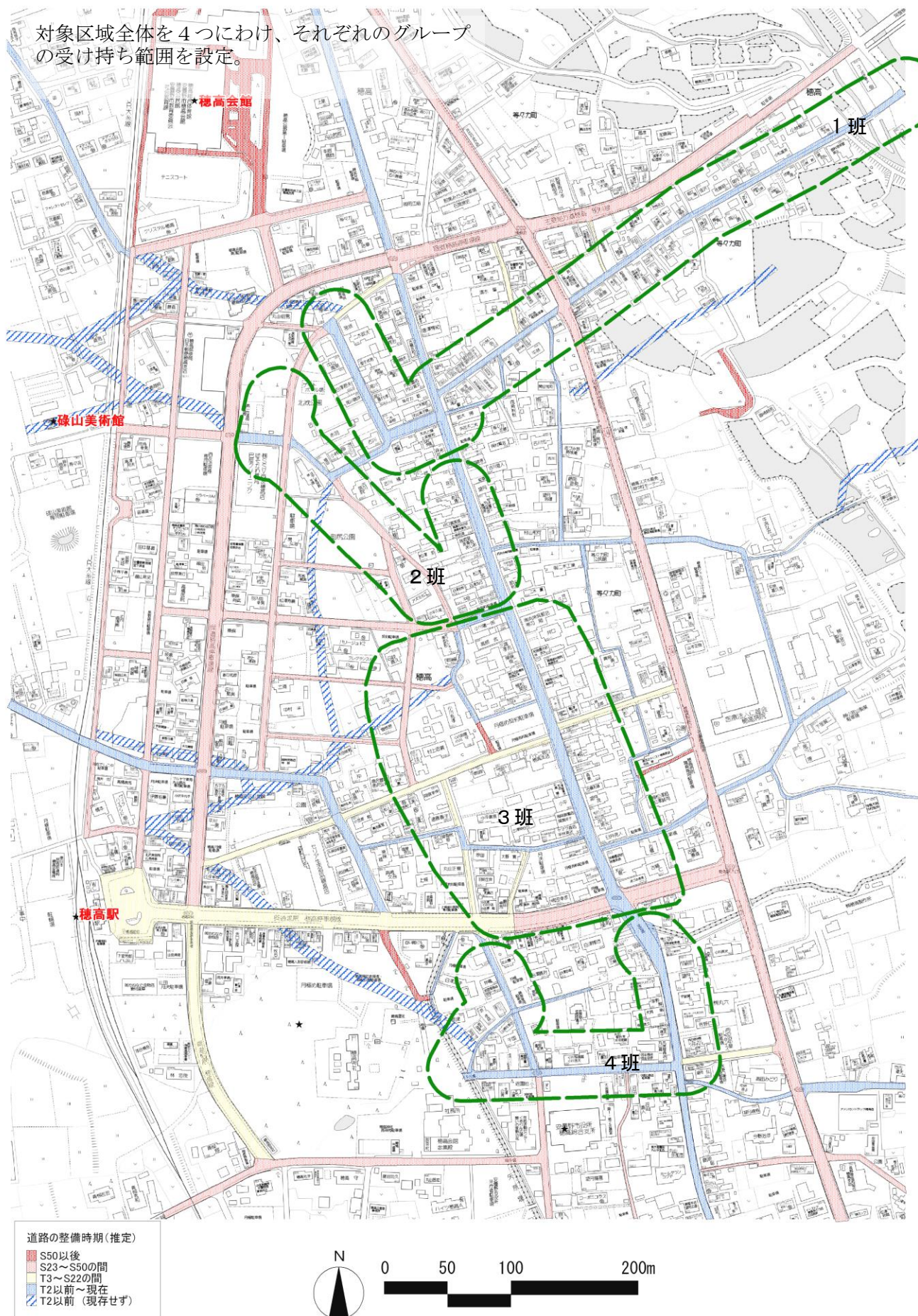
ワークショップ1



ワークショップ2



対象区域全体を4つにわけ、それぞれのグループの受け持ち範囲を設定。



現地踏査・ワークショップ用の図面

